

教育委員会だより

学校教育推進の重点(学校別紹介)

第10回 「大屋小学校」

平成18年4月、4小学校が統合し新しい大屋小学校が開校しました。地域住民の大きな期待が寄せられる中で、子ども達は大きな夢と希望を持ち出発しました。

『励まし合い高め合う子ども』

①伝え合う力を育てる授業

多人数だから多くの人の考えが出し合える授業づくりに取り組んでいます。自分の考えを伝え、友達の考えを聞くことで、深められる多様な考えを引き出すことは学習への喜びになっています。

②違いを認め合える活動

220人の子ども達には、それぞれに違いがあります。「全校遊び」「縦割り活動」、「掃除」、「遠足」、「集団登校」など多くのつながりが生まれます。全校生が互いに違いを理解し、認め合うことが求めら

れています。

③個に応じた指導

集団の中で個に応じた指導は重要です。学習面だけでなく、生活面を含めて精神的に安定することが学級、学校の活性化に結びつくこととなります。

④伝統を受け継いだ活動

運動会では、6年生が中心



になって、特色ある演技を創り出してくれました。「悔いがなく、伝統残せ、大屋小！」を目標に、旧4小学校での取り組みを取り入れて一つの演技に仕上げました。口大屋小学校の応援パネル、南谷小学校の

和太鼓、西谷小学校のソーラン節など「素晴らしい演技に感動した」と保護者の声も聞かれました。

『地域共生の中で育つ子ども』

(ふるさと学習)

感性を育てる豊かな自然と温もりのある大屋の素晴らしい環境を生かした教育を大切にしたいと思います。

「デイサービスに行こう」、「この町大好き」、「おおやの郷訪問」、「ぼくたち、わたしたち大屋」、「大屋の自然を調べよう」、「米作り体験」、「地域の人とふれあおう」など

素晴らしい建物の中に命を吹き込むことは、私たち教師や保護者・地域の役割です。子どもが生きいきと活動し、楽しく過ごしてくれる大屋小学校を築き上げていくことが大切です。130年以上の歴史を経てきた4小学校が一つ

になっての初年度、新しい歴史を創り上げていく責任は非常に大きいと言えます。地域ふるさとに学び、夢と希望を大切にしたい子どもを育てたいと考えています。

(学校長 米田哲郎)

まちの文化財 ③〇

二宮神社の本殿

大屋町大杉にある二宮神社は、毎年8月16日に「さんざこ踊り」が奉納されることで有名です。

今回、二宮神社本殿を調査しました。外から見える建物は正面が拝殿で、その後ろが本殿の覆屋となっています。この覆屋の中に文政11年(1828)に建てられた本殿があります。

建物の規模は、正面の壁の幅が155センチ、側面の壁の幅が126センチです。神社の屋根は入母屋造りで、屋根の正面に千鳥破風と唐破風を付けた丁寧な建物です。棟札には大工棟梁は濱儀四郎、木挽棟梁は河辺九兵衛という大杉村の人名が書いてありました。

特に、向拝には豪華な彫刻があります。龍の彫刻にはガラス玉で作った玉眼を入れ、白波の上をはねる兎も彫刻されています。さらに、獅子の顔を彫った獅噛神の彫刻があります。また、縁側には擬宝珠高欄といって青銅製の宝珠をのせた欄干が作られています。

この建物に彫刻の作者名が彫られています。「丹州柏原町住

人、彫物師、中井権次橋正貞」のほか「中井清次郎正用、久須真助正笑」という人名です。中井正貞は中井氏の第6代目当主で、正用は正貞の弟です。

中井氏は、江戸時代後期に北近畿で多くの社寺に豪華な彫刻を残した彫刻家で、丹波市柏原町に居住しました。第4代中井忠貞が大工から彫刻師に家業を転換して栄えました。中井正貞からは中井権次を襲名します。そして、昭和13年に作られた拝殿にも龍の彫刻があり、「彫刻師九代目、中井権次」の銘文が刻まれています。

二宮神社は、第6代と第9代の2人の中井権次が彫刻を残した貴重なものです。江戸時代後期に作られた社寺建築の彫刻を検討する上で、重要な建造物だと判明しました。(社会教育課)

